

平成23年度 教科に関する研究
研究主題「思考力，判断力，表現力をはぐくむ学習指導の展開」

音 楽

知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる
音楽科学習指導の展開
－〔共通事項〕を生かした言葉の重視と体験の充実－



♪ 目 次 ♪

1	主題について	1
2	授業研究	3
	【授業研究 1 小学校】	3
	小学校第5学年「お気に入りのメロディーをつくろう」における知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる学習指導の展開 ー音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを基に、イメージを音楽で表現する活動の工夫を通してー	
	【授業研究 2 中学校】	10
	中学校第1学年「イメージをもって歌い方を工夫し、伝え合おう」における知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる学習指導の展開 ー思いや意図をもって、曲想にふさわしい歌唱表現を創っていくための学習過程の工夫を通してー	
	【授業研究 3 中学校】	17
	中学校第2学年「イメージしよう～絵画と音楽～」における知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる学習指導の展開 ー音楽のよさや美しさを味わいながら主体的に鑑賞するためのワークシートの工夫を通してー	
3	研究のまとめ	24

教科に関する研究主題：「思考力、判断力、表現力をはぐくむ学習指導の展開」

平成21・22年の2年間の研究では、学習指導要領や学校教育指導方針の趣旨を踏まえ、児童生徒に思考力、判断力、表現力をはぐくむことを目指して、創意工夫を生かした特色ある学習指導の研究を行った。今年度は、先の研究成果を踏まえて、より実践的な内容として、教科ごとに主題を設定し、研究を進めた。

音楽科研究主題

知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる音楽科学習指導の展開

－〔共通事項〕を生かした言葉の重視と体験の充実を通して－

1 主題について

(1) 音楽科における思考・判断について

中央教育審議会の答申（平成20年1月）において、小中学校の音楽科、高等学校の芸術（音楽）のすべてに関わる課題の一つとして、児童生徒が、感性を高め、思考・判断し、表現する一連のプロセスを働かせる力の育成を挙げている。そして、これを受けて、音楽科の改善の基本方針が次のように示されている。

音楽科改善の基本方針（抜粋）

- 音楽科、芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活とのかかわりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。
- このため、子どもの発達の段階に応じて、各学校段階の内容の連続性に配慮し、歌唱、器楽、創作、鑑賞ごとに指導内容を示すとともに、小・中学校においては、音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど表現と鑑賞の支えとなる指導内容を〔共通事項〕として示し、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を一層重視する。

（下線は、本資料作成者による。）

下線で示したように、音楽科における思考・判断する力の育成に向けて、音楽科の内容は、これまでの「A表現」「B鑑賞」に〔共通事項〕が加えられた。

小学校学習指導要領解説音楽編（平成20年8月文部科学省）及び中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年9月文部科学省）に示されている〔共通事項〕の内容は、以下のようになる。

小学校〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取る。

(ア) 音楽を特徴付けている要素

(イ) 音楽の仕組み

イ 音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること。

中学校〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を

形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じ受すること。

イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。

(下線は、本資料作成者による。)

(2) 研究の基本方針

児童生徒が思考・判断する学習における核となる活動は、〔共通事項〕に示された要素などを窓口に、音や音楽のよさや面白さ、美しさを聴き取ったり感じ取ったりすること、それを基に自分なりの思いや意図をもって試行錯誤しながら表現すること及び主体的に鑑賞することである。

平成21年度の研究では、このような活動の充実を図ることと併せて、活動の中に音や音楽から聴き取ったり感じ取ったりしたことを言葉などで表すことを取り入れる試みをした。〔共通事項〕を生かした言葉の重視によって、表現に対する思いや意図を明確にして表現したり、主体的に音楽のよさや美しさを味わいながら鑑賞したりすることができ、体験の充実につながっていった。

今回の学習指導要領（平成20年3月告示）の改訂において、音楽科では、学校で音楽を学ぶ意義について改めて示された。つまり、仲間とともに創意工夫して一つの音楽を表現したり様々な感じ取り方に触れながら鑑賞したりすることを通して、協同する喜びを感じる指導を重視することである。そのためには、〔共通事項〕を基に音や言葉で「伝え合う」活動が不可欠であると考えます。

そこで、本研究では、〔共通事項〕を生かした言葉の重視と体験の充実として、知覚・感受する音楽を形づくっている要素の焦点化を図り、音や言葉で「伝え合う」活動を位置付け、音楽科における思考・判断する力を育てる学習指導の展開について実践的な研究を行う。具体的には、音や音楽から知覚・感受したことを基に、イメージを音で表現する活動、自分のつくった音楽を紹介する活動、歌詞から音楽のイメージを広げて自分たちの歌唱表現をつくっていく活動、音楽のよさや美しさを紹介する活動などを位置付ける。このような活動を通して、他の感じ方に触れ、共感したり、意味を考えたりすることは、自分自身の表現に対する思いや意図を明確にしてよりよい表現を求めていったり、音楽のよさや美しさを深く感じ取ったりしていくことにつながると考える。知覚・感受する音楽を形づくっている要素の焦点化を図り、音や言葉で「伝え合う」活動を位置付けることは、児童生徒の思考・判断する力を育てていくことになると考える。

(3) 主題に迫るために

本研究では、知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てるために、〔共通事項〕を生かした言葉の重視と体験の充実を図っていく。そこで、以下に示すア、イの2点を踏まえ、具体的な手立てを講じた表現及び鑑賞の授業研究を行う。

ア 〔共通事項〕を生かした活動

○音楽を形づくっている要素の焦点化を図る。

イ 言葉の重視と体験の充実

○音や言葉で「伝え合う」活動を位置付ける。

2 授業研究

【授業研究1 小学校】

小学校第5学年「お気に入りのメロディーをつくろう」における知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる学習指導の展開
－音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを基に、イメージを音楽で表現する活動の工夫を通して－

1 領域 「A表現 音楽づくり」

2 題材名

「お気に入りのメロディーをつくろう」

3 題材の目標

イメージを基に、音の動きやリズムを工夫して旋律をつくったり、つくった旋律に反復や変化を加えたりして、まとまりのある音楽をつくる。

4 焦点化する〔共通事項〕

・ア(ア) リズム, 旋律, フレーズ, (イ) 反復, 変化

5 題材設定の理由

本題材では、小学校学習指導要領（平成20年3月）音楽の第5学年及び第6学年A表現(3)音楽づくりに示された「イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること」を受けて、児童が、思いや意図をもって、まとまりのある音楽をつくっていくことをねらいとしている。そのためには、つくりたい音楽のイメージをもち、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを基に、思考・判断する活動が必要であると考え。

児童にとって、音楽づくりは歌唱や鑑賞活動に比べると苦手意識の強い活動である。その理由としては、音楽をつくるという活動の経験が少ないこと、記譜が得意ではないことなどが考えられる。

そこで、指導に当たっては、まず、音楽から反復や変化などの音楽の仕組みを知覚・感受することから始め、音楽がどのようにできているのかを捉え、音楽をつくるための見通しをもてるようにする。そして、与えられた2小節の旋律に続く試しの旋律づくりから、8小節の音楽をつくる活動へと学習を展開していく。8小節の音楽をつくる活動では、児童がつくりたい音楽のイメージをもち、音の動きやリズムなどを工夫しながら旋律をつくったり、その旋律に反復や変化を加えたりすることを通して、まとまりのある音楽がつかれるようにする。また、つくった旋律や音楽を演奏したり、友達と聴き合ったりすることで、よりイメージに合った旋律や音楽を求めて更に思考・判断できるようにする。このような活動を通して、児童の思考・判断する力を育てていきたいと考え、

本題材を設定した。

6 教材

「静かにねむれ」 武井君子日本語詞／フォスター作曲／浦田健次郎編曲

7 主題に迫る具体の手立て

(1) 〔共通事項〕を生かした活動

ア 音楽の仕組みを捉える活動から音楽をつくる活動へ

高学年の音楽づくりの活動では、音楽の仕組みを生かし、つくる音楽の形やそれに至る方法を考えるなど、見通しをもってまとまりのある音楽をつくることが求められている。そこで、歌唱教材として、実際に児童が歌っている楽曲から、音楽がどのようにできているのか、音楽の仕組みを知覚・感受する。そして、その音楽の仕組みを使って、まとまりのある音楽をつくる活動を展開する。

イ イメージを音楽で表現する活動

短い旋律の中にも、「このような音楽にしたい」という児童なりの表現への思いをつくりたい音楽のイメージとして具体的にもてるようにする。そして、どのようにすればイメージに合った音楽になるのか、音の動きやリズムなどの音楽を特徴付けている要素、反復や変化などの音楽の仕組みを手掛かりに、思考・判断しながら音楽をつくっていく。

(2) 言葉の重視と体験の充実

ア 自らの思いや意図を明確にする活動（言葉の重視）

旋律づくりを始めるに当たって、一人一人がどのような旋律や音楽にしたいのかという思いを具体的なイメージとしてもてるようにする。イメージをもつことによって、どのような音の動きやリズムがよいのか、どのような反復や変化がよいのかななどを思考・判断することができるようになり、旋律や音楽がつくりやすくなると考えた。また、イメージを言語化し、それを音にすることで、どうしてそのような表現にしたのか、他の思いや意図を理解しながら、意見を交換したり、よさを認め合ったりしながら、よりよい表現を目指すことができるのではないかと考えた。

イ 試す活動から生かす活動へ（体験の充実）

音楽がどのようにできているのかという音楽の仕組みを、実際に音楽から知覚・感受することを通して捉える。そして、それを基に、思考・判断しながら音楽をつくっていく。その際、リコーダーやオルガンなどの楽器を使ったり、歌ったりして、音で確かめていくようにする。

試す活動では、提示されている旋律に続く、2小節ずつ二つの旋律をつくり、音楽にしていく。その際、音楽の仕組みの反復や変化を基に、思考・判断しながら音楽をつくっていく。生かす活動では、8小節の音楽をつくる活動に取り組む。まず、つくりたい音楽のイメージをもつ。そのイメージを基に、音の動きやリズムを工夫しながら2小節分の旋律をつくる。それに反復や変化を加えながら音楽にしていく。どのようにしたらイメージに合った音楽がつかれるのか、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを基に思考・判断しながら、より自分のイメージに合った音楽や

まとまりのある音楽が作れるようにしていく。

8 授業の実践

(1) 題材の評価規準

<p>ア 音楽への関心・意欲・態度</p> <p>①音楽の仕組みに関心を持ち、進んで音楽から聴き取ったり、感じ取ったりしようとしている。</p> <p>②音を音楽に構成していくことに興味、関心を持ち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>イ 音楽表現の創意工夫</p> <p>①旋律の繰り返しや変化、「続く感じ」や「終わる感じ」の特徴を生かし、つくる音楽やその方法などについて思いや意図、見通しをもっている。</p>	<p>ウ 音楽表現の技能</p> <p>①音楽の仕組みを生かし、約束事に従って旋律をつくっている。</p>
--	---	--

(2) 学習と評価の計画（6時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	評価規準
第1次 (1)	【知覚・感受】 ○「静かにねむれ」の旋律の特徴を知る。	○「静かにねむれ」の音の動きやリズム、和音など、旋律の特徴について話し合う。 (個別→一斉)	旋 律 フ レ ズ リ ズ ム 反 復 変 化 ↓	アー①
第2次 (2)	【思考・判断】 ○曲のまとまりを生かして旋律をつくる。	○音の動きやリズムのイメージを考え、約束事に従って続きの2小節をつくる。 (個別) ○つくった旋律をリコーダーやオルガンで演奏したり、階名で歌ったりして、気に入ったものになっているか確認する。 (個別→グループ→個別) ○つくった旋律を発表し、互いに聴き合って意見を交換する。 (一斉)		アー② イー① ウー①
第3次 (3)	【思考・判断】 ○「音楽の仕組み」を生かして音楽をつくる。	○曲のイメージを持ち、それに合った8小節の音楽をつくる。 (個別) ○つくった音楽を発表し、互いに聴き合って意見を交換する。 (一斉)		アー② イー① ウー①

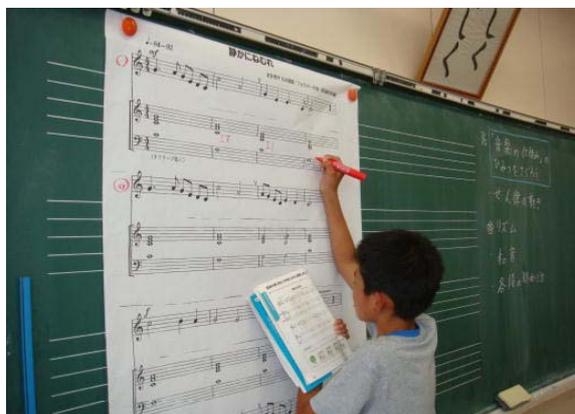
9 授業の分析と考察

(1) 〔共通事項〕を生かした活動

ア 音楽の仕組みを捉える活動から音楽をつくる活動へ

第1次第1時では、音楽の仕組みを捉えるために、歌唱教材「静かにねむれ」において、旋律のまとまりを基に、音の動き・リズム・和音・各段の終わり方の四つの観点から楽曲分析を行った。旋律を階名唱したりリズム打ちをしたりすることで、似ている旋律が繰り返し使われていることに気付いたり（知覚）、続く感じや終わる感じを感受したりする

資料1 拡大楽譜に楽曲分析をしている様子



ことができた。また、全く雰囲気の異なった旋律を盛り込むことで、音楽に変化をもたせることにも気付くことができた（資料1，表1）。旋律のまとまりを基に、知覚・感受する活動を通して、児童は、音楽がどのようにできているのか、捉えることができた。

このような楽曲分析を通して獲得した知識や技能を基に、音楽をつくる活動を行った。

表1 楽曲分析のまとめ

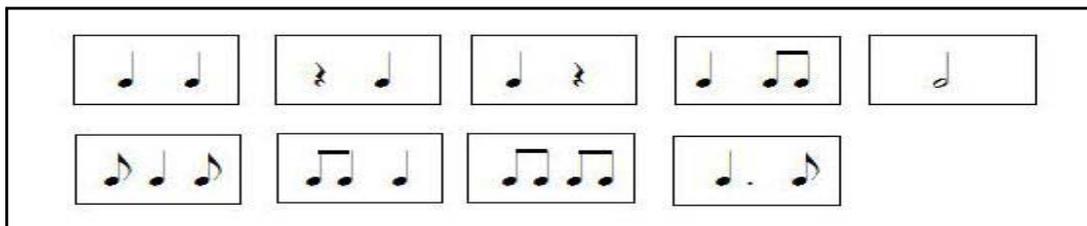
	1 段目	2 段目	3 段目	4 段目
音の動き	前半は大きく， 後半はなだらか	1 段目と同じ	なだらかに下がる	1 段目と同じ
リズム		1 段目と同じ	二分音符と四分音符が特徴	1 段目と同じ
和音	I 度の和音から始まる	1 段目と同じ	IV 度の和音から始まる	1 段目と同じ
各段の終わり方	続く感じ	終わる感じ	続く感じ	終わる感じ

イ イメージを音楽で表現する活動

第3次では、第2次での試す活動から生かす活動を展開する。第1時では、お気に入りの旋律にしていくために、つくりたい音楽のイメージをもたせた。そして、それを表現するために、音の動きやリズム、反復や変化を手掛かりにした。

まず、図1に示した2拍分のリズムパターンを九つ提示し、それを手拍子で表現することを通して、そのリズムから感じ取れるイメージを話し合った。次に、「校歌」に使われているリズムパターンの種類を調べた。児童は、決められたリズムパターンが繰り返されていることに気付き、必要なリズムパターンを選択していった。そして、つなげたリズムパターンに音で動きをつけて、旋律をつくっていった。音の動きについては、旋律線を用い、上っていく、下りてくる、なだらか、ぎざぎざなどを示し、イメージに合った動きを選び、五線譜上に音符を書き込んでいった。このように、音の動きやリズム、反復や変化を手掛かりに、思考・判断しながら、イメージに合った音楽をつくっていくことができた。

図1 提示したリズムパターン



(2) 言葉の重視と体験の充実

ア 試す活動から生かす活動へ（体験の充実）

試す活動として、与えられた旋律に続く旋律づくりでは、提示された2小節の旋律に対して、リズムや音の動きを同じにしたり、異なるリズムや音の動きにしたりした。また、「続く感じ」や「終わる感じ」の音を選びながら、旋律をつくっていった（図2）。この活動を通して、児童は、旋律づくりへの見通しをもつことができた。

図2 児童の作品例（試す活動）

最初の2小節とちょっと感じを変えて、動きを小さくして落ち着いた感じにしたい。

※各段の前半の2小節については、教育芸術社「小学生の音楽5」P.49 参照

下りてくる旋律にしたい。

続く感じ

終わる感じ

— 線はイメージ ~~~ 線は音の動きに関わる内容

生かす活動では、旋律の音の動きやリズムを工夫し、それを繰り返したり、変化させたりして、イメージに合った音楽やまとまりのある音楽をつくることができた（図3）。

図3 児童の作品例（試す活動を生かす活動）

A児

はねる感じの音楽にしたい。

*ぎざぎざの旋律線と休符のあるリズムで表現している。

はねているように一音とばす。

動いている感じになるように休みを入れる。

同じ音のくり返しがあると楽しいから。

*旋律の繰り返しを使っている。

B児

なめらかな感じの音楽にしたい。

*なめらかな旋律線になるように音の動きやフレーズの最後の音符を工夫している。

音がとばないようにする。

リズムを同じにしてまとまるようにした。

1回目とは変えて上がるようにした。

* 2小節ずつ同じリズム、同じ旋律の動きにして、音楽のまとまりを意識している。最後だけ動きを変え、変化を加えている。

※ — 線はイメージ, ~~~ 線は音の動き, == 線はリズムに関わる内容を示している。

C 児 * 跳躍進行を取り入れたり、同じリズムを二回繰り返したりして弾む感じを表している。

はずむ音楽にしたい。

ジャンプするような感じ。

前半はずんだから後半はちよつと静かにして2段目また元気に始めたい。

* 弾んで終わるように上向きの旋律の動きと音の高さを工夫している。

はずむ感じだから高い音で終わりたい。

※ — 線はイメージ, ~ 線は音の動き, = 線はリズムに関わる内容を示している。

イ 自らの思いや意図を明確にする活動（言葉の重視）

音楽をつくり始めるに当たって、どのような音楽にしたいのかイメージをもたせ、それを言葉で表すようにした。「流れる感じ」や「はずむ感じ」など曲想に関するものや、「（音が）上がるように」や「上がってから下がる」など音の動きに関するものなど、それぞれのイメージを言語化することができた。イメージを言語化したことで、思いや意図が明確になり、振り返りにおいて「イメージに近づくことができたか」と問うたので、自己評価をすることができた。学習後のアンケートで「イメージをもつことが旋律づくりに役立った。」と答えた児童は30人中18人であったことから、イメージを言語化することは音楽づくりに有効な方法の一つであるといえる。2回目の音楽をつくる活動では、リズムから感じ取れるイメージを「元気な感じ・はずむ感じ」、音の動きを「流れる感じ・やさしい感じ」の二つに大きく分け、リズムを2拍ずつから成るリズムパターンから選んだり、音の動きを考えたりすることができた。

8小節の音楽が完成すると、友達と確認し合う姿が見られ、思い思いの感想を伝え合っていた。また、「ちょっと聴いて。」と友達に声を掛け、自分の作品を聴いてもらう場面が見られ、友達からのアドバイスや感想など音と言語による交流がなされ、更によりよい作品づくりにつながっていった（資料2）。アンケートでも「友達のアドバイスが役に立った。」と答えた児童がいた。また、作品発表会でも多くの友達から作品に対する意見や感想を得ることができた（資料3）。

資料2 互いに聴き合っている様子



資料3 授業後の児童の感想

- 音楽がつかれるか心配だったけど、楽しくできたのでよかった。
- 自分のお気に入りのメロディーがくれたので楽しかった。
- イメージどおりの曲がくれた。つくったメロディーはとても気に入った。

10 授業研究の成果

これまでの音楽の授業では歌唱や器楽，鑑賞が中心で，音楽づくりは児童にとってほとんど経験のない学習活動であった。そのため，今回の「お気に入りのメロディーをつくろう」の学習前のアンケートでは，30人中18人の児童が「難しそう。」，「できるかどうか心配。」と答えていた。しかし，音楽の仕組みを捉える活動から音楽をつくる活動を展開したり，つくりたい音楽のイメージを言語化し，思いや意図を明確にしたりすることで，音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを基に，試行錯誤しながら自分だけの音楽を完成させることができた。学習後には30人中21人の児童が「音楽をつくることができて楽しかった。」と答えていた。

音楽づくりの活動においては，音楽がどのようにできているのか，音楽の仕組みを理解することは必要不可欠である。ルールの中でつくるからこそ，まとまりのある音楽が生まれると考える。児童の中には「曲の仕組みがよくわかって楽しかった。」という感想もあった。

自分のイメージに合った音楽をつくるために，知覚・感受した音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みを基に試行錯誤することは，児童の思考・判断する力を育てることにつながったと考える。

さらに，今回の学習でつくった音楽を作品として残しておくためには記譜が必要であることに気付き，友達や教師に質問しながら一生懸命に楽譜を書く姿が見られた。音符を読んだり書いたりすることに苦手意識をもっていた児童が多かったが，すべての児童が，自分の作品を楽譜に書き表すことができた。記譜については，今後も指導の適時性を配慮していきたい。

中学校第1学年「イメージをもって歌い方を工夫し、伝え合おう」における
知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる学習指導の展開
－思いや意図をもって、曲想にふさわしい歌唱表現をするための学習過程の工夫を通して－

1 領域 「A表現 歌唱」

2 題材名

「イメージをもって歌い方を工夫し、伝え合おう」

3 題材の目標

楽曲のもっているよさや特徴を感じ取り、イメージを広げ、思いや意図をもって表現を工夫しながら歌う。

4 焦点化する〔共通事項〕

- ・ア 音色（歌声） リズム 速度 旋律 強弱 音の長さ
- ・イ 三連符 $\gamma \downarrow$ *pp* *p* *mp* *mf* \leftarrow \rightarrow *dim.* \frown *rit.* *ten.*

5 題材設定の理由

中学校学習指導要領（平成20年3月）の音楽においては「歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」が歌唱表現の指導内容の一つに示されている。また、我が国のよき音楽文化を世代を超えて受け継がれるようにする観点から、「夏の思い出」を含む7曲の歌唱共通教材が提示されている。さらに、音楽科の学習活動を支える〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の能力を育成する上で共通に必要なものとして示されている。これらを受けて、本題材では、歌詞の内容や音楽を形づくっている要素から曲想を感じ取って、表現したい音楽のイメージを膨らませながら、思いや意図をもって歌唱表現することをねらいとしている。そして、表現への思いや意図をもって歌唱表現するためには、音楽から知覚・感受したことを基に、思考・判断することが必要であると考えられる。

歌唱では、これまでに「明日という大空」、*「マイバラード」*の2曲に取り組んできた。歌うことに意欲的な生徒が多く、音程やリズムなどに気を付けて歌ってきた。しかし、歌詞の意味を考えたり、曲想に合った歌い方を工夫したりすることは十分ではなかった。

そこで、本題材の指導に当たっては、まず、歌唱共通教材の「夏の思い出」を取り上げ、歌詞や曲想からイメージされる温かさや優しさ、広がりについて全体で話し合い、「どのように歌ったらよいか」と表現への思いや意図をもち、〔共通事項〕を手掛かりに歌い方を工夫していく活動を位置付ける。その経験を生かして、「Forever」では、

歌詞の意味や曲想を感じ取り、楽曲に合った歌い方をグループで考え、全体で共有しながら表現を練り上げていく。このように生徒が主体的に曲想に合った歌い方を工夫する活動を通して、思いや意図をもって表現をつくり上げていくよさや楽しさが味わえるようにしたいと考える。

6 教材

「夏の思い出」 江間章子 作詞／中田喜直 作曲

「Forever」 杉本竜一 作詞・作曲

7 主題に迫る具体の手立て

(1) 〔共通事項〕を生かした活動

「夏の思い出」と「Forever」において、すべての学習活動の支えとなる〔共通事項〕を手掛かりにして、「知覚・感受→思考・判断→表現」する学習過程を連続して展開する。

「知覚・感受」、「思考・判断」、「表現」それぞれの学習において、以下のような手立てによる学習活動を展開する。なお本研究では、〔共通事項〕を、生徒にとって親しみやすい言葉で示すために、「音楽のアイテム」として提示することとする。

ア **知覚・感受**（歌詞や曲想からイメージをもつ。音楽を形づくっている要素を知覚し曲想を感受する。）

A エピソード（楽曲の成り立ち、時代背景、作詞者や作曲者の思いなど）の紹介と歌詞の群読

B 「音楽のアイテム」を手掛かりにした歌唱教材の鑑賞

A及びBの活動から、音楽を形づくっている要素を知覚し、感じ取った曲想を付箋に記入し、拡大楽譜に貼って伝え合うことを通して、歌い方を工夫するための見通しや表現への思いや意図がもてるようにする。

イ **思考・判断**（曲想にふさわしい表現を工夫する。）

「音楽のアイテム」を手掛かりに、「夏の思い出」では全体で、「Forever」では、グループで表現の工夫をする。その中で曲想にふさわしい歌い方について思考・判断する。

ウ **表現**（工夫点を共有し、歌唱表現する。）

歌い方の工夫点を「音楽のアイテム」や自分なりの言葉を使って伝え、表現を練り上げながら曲想にふさわしい表現で歌う。

(2) 言葉の重視と体験の充実

ア 言葉の重視

○ 歌詞や曲想、イメージなどから、歌い方の工夫について自分の考えを付箋にまとめる。

○ 楽曲のどの箇所をどのように歌ったらよいか、「音楽のアイテム」を手掛かりに全体及びグループで考える。

○ グループで考えた歌い方の工夫を基に、全体で表現を練り合う。

○ 歌ってみて感じたことをワークシートに自分の言葉でまとめる。

イ 体験の充実

「夏の思い出」では、「知覚・感受→思考・判断→表現」する学習過程を教師がリードしながら全体で学習する。この学習過程を体験することで、学習の流れと歌い方の工夫をするための方法を理解できるようにする。そして、「Forever」では、全体で「知覚・感受」した後に、各グループで「思考・判断→表現」する活動を行う。生徒が、「音楽のアイテム」を基に、試行錯誤しながら曲想にふさわしい歌い方の工夫をする。さらに、各グループで考えた歌い方の工夫を基に歌う活動を位置付け、工夫したことを共有しながら、表現を練り上げていく。

8 授業の実際

(1) 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
①歌詞が表す情景や心情、それぞれの曲の表情や味わいに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律の音のつながり方やフレーズ、リズム、速度、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①歌詞が表す情景や心情曲の表情や味わいを生かした曲にふさわしい音表現をするために、発声や読譜の仕方などを身に付けて歌っている。

(2) 学習と評価の計画（4時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	[共通事項]	評価規準
第1次 (2)	<p>【知覚・感受】</p> <p>○「夏の思い出」に対するイメージを広げ、「音楽のアイテム」を手掛かりに曲想を感じ取る。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>○「音楽のアイテム」を手掛かりに、「夏の思い出」の曲想にふさわしい歌い方を試行錯誤しな</p>	<p>○旋律の歌唱（一斉）</p> <p>○曲の解説（曲に関するエピソードや写真を紹介）</p> <p>○歌詞の理解とイメージの伝え合い（群読、教師の発問、生徒の発表）</p> <p>○範唱の鑑賞と曲想の理解（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のアイテム」を手掛かりに一番「夏の思い出」らしさを表している箇所を探し出し、理由を付箋に記入し拡大楽譜に貼る。 ・付箋が集中している箇所の主な理由や曲想を捉えている理由などを紹介する。 <p>○次時の学習内容の把握（一斉）</p> <p>○発声練習及び旋律の歌唱（一斉）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のアイテム」を手掛かりにどこをどのように歌えばよいか、全体で話し合いながら工夫して歌うことを確認する。 <p>○学習課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のアイテム」を手掛かりに曲想に合った歌い方をみんなでき工夫する。 <p>○表現を工夫しながら伝え合う活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの「音楽のアイテム」を手掛かりにして歌い方を工夫するか全体 	<p>旋 律</p> <p>リ ズ ム</p> <p>音 色</p> <p>速 度</p> <p>強 弱</p>	<p>アー①</p> <p>イー①</p>

	がら全体で考えて歌う。	で話し合う。 ・歌唱による表現活動 ○学習のまとめ (ワークシート) (個人)	↓	
第2次 (2)	<p>【知覚・感受】</p> <p>○「Forever」に対するイメージを広げ、「音楽のアイテム」を手掛かりに曲想を感じ取る。</p> <p>【思考・判断】</p> <p>○「音楽のアイテム」を手掛かりに「Forever」の曲想にふさわしい歌い方をグループで考え、全体に伝えて歌う。</p>	<p>○旋律の歌唱 (一斉)</p> <p>○曲の解説 (作曲者のことばを紹介)</p> <p>○歌詞の理解とイメージの伝え合い (群読, 教師の発問, 生徒の発表)</p> <p>○範唱の鑑賞と曲想の理解 (個人)</p> <p>・「音楽のアイテム」を手掛かりに一番「Forever」らしさを表している箇所を探し、理由を付箋に記入し拡大楽譜に貼る。</p> <p>・付箋が集中している箇所の主な理由や曲想を捉えている理由などを紹介する。</p> <p>○次時の学習内容の把握 (一斉)</p> <p>・「音楽のアイテム」を手掛かりにどこをどのように歌えばよいかグループで話し合いながら決め、各グループが指導者になって全体に伝えて練習を進めることを確認する。</p> <p>○発声練習及び旋律の歌唱 (一斉)</p> <p>○学習課題の把握</p> <p>・「音楽のアイテム」を手掛かりに曲想に合った歌い方をグループで工夫し、みんなに伝える。</p> <p>○表現を工夫する活動 (グループ)</p> <p>・どの「音楽のアイテム」を手掛かりにどの箇所をどのように歌い方を工夫するのかを話し合う。</p> <p>○伝え合う活動 (一斉)</p> <p>・表現の工夫の説明 (各グループ)</p> <p>・歌唱による表現活動 (全体)</p> <p>○学習のまとめ (個人)</p> <p>(ワークシート)</p>	<p>旋 律 リ ズ ム</p> <p>音 色 速 度 強 弱</p> <p>↓</p>	<p>イー①</p> <p>ウー①</p>

9 授業の分析と考察

(1) [共通事項] を生かした活動

「知覚・感受→思考・判断→表現」する学習過程の展開について

ア **知覚・感受** (第2次第1時: イメージをもつ。要素を知覚し曲想を感受する。)

「Forever」では、作曲者の思いを紹介した上で歌詞を繰り返し群読したことによって、表1に示したような「生き生き」とした、「力強い」、「前向き」など、歌い方を工夫するために必要なイメージをもち、全体的な見通しや表現への思いや意図をもつことができた。

表1 楽曲から生徒が描いたイメージ

・夢がある	・華やか	・前向き
・生き生き	・力強い	・壮大
・輝く未来	・希望	
・夢に向かって進む感じ		
・応援するような感じ	など	

そして、「音楽のアイテム」を手掛かりに「Forever」の範唱を鑑賞すると、各自が捉えた曲想を付箋に記入し、歌い方を工夫したい箇所を拡大譜に貼り付けた（資料1）。様々な箇所に付箋が貼られ、生徒一人一人が楽曲中に存在している曲想を感じ取ることができた。「夏の思い出」を通して学習してきたことが生かされ多くの生徒がイメージと音楽の要素を結び付けて曲想を捉えることができた。

資料1 付箋をつけた拡大譜



イ **思考・判断**（第2次第2時：曲想にふさわしい表現を工夫する。）

「Forever」では、「夏の思い出」で工夫した経験を生かして、「音楽のアイテム」を手掛かりに曲想に合った歌い方についてグループで話し合った（資料2）。生徒が工夫したいと考えた旋律は、二つある曲の山のうち、最初の曲の山であった。旋律の重なり方や動きなどの特徴を捉え、どのように表現したらよいかを考えながら、強弱、音色（歌声）など、曲想にふさわしい歌い方の工夫をすることができた（資料3）。

資料2

グループで話し合っている様子



資料3 グループで話し合っ考えた歌い方の工夫

「Forever」 作詞・作曲 杉本 竜一

13小節目から21小節目まで

- 男らしい感じと女らしい感じの旋律が追いかっこをしているので、はじめの旋律は女子が優しく歌い、低い音で追いかける旋律は、男子が力強く歌うと生き生きとしてくると思う。

「旋律の追いかっこ」という新しい「音楽のアイテム」を発見し、音色（歌い方）で表現しようとしている。

- 一つ一つの言葉をはっきりと歌いながらクレッシェンドをして、未来への希望を表したい。
- 女声と男声が合わさって一つのメロディーになるところなので、揃えて歌って力強さを出したい。

言葉とクレッシェンドの二つのアイテムを効果的に使って、未来への希望とい

う前向きな感じを力強く表現しようとしている。

- 最初の曲の山なので、直前の八分休符を感じて「いま」と歌い始め、「あるき」の三連符を大切に歌い前向きな感じを出したい。
- きっぱりと毅然とした感じにしたいので、胸を張って（姿勢）、言葉をはっきりと歌いたい。

曲の山という構成を考えて、言葉、休符や三連符などのリズムから歌い方の工夫をして、毅然とした、前向きな感じを表現しようとしている。

※ ____ = 曲想, ~~~~ = 「音楽のアイテム」

ウ **表現**（第2次第2時：工夫点を共有し、歌唱表現する。）

「Forever」では、グループで話し合っ
て決めた歌い方の工夫点を伝え合った。

「音楽のアイテム」という共通の言葉を使うことで、工夫点を共有することができた。そして、それぞれのグループの工夫点を基に、実際に歌うことで確かめながら、曲想にふさわしい表現にしていくことができた（資料3）。

(2) 言葉の重視と体験の充実

ア 言葉の重視

「Forever」では、作曲者の思いを紹介した後で歌詞を群読したことから、イメージを広げ、歌詞や曲想とつなげて、歌い方の工夫について自分の考えを付箋にまとめることができた。

また、拡大楽譜と「音楽のアイテム」を示したことで、曲のどの箇所をどのように歌ったらよいか〔共通事項〕を手掛かりに、全体及びグループで活発に歌い方の工夫について話し合うことができた。そして、グループで話し合ったことを全体で共有しながら、より曲想にふさわしい表現を目指して、表現を練り上げることにつながった。

授業後の振り返りでは、「イメージをもって歌えた。」、「歌い方が工夫できた。」、「グループで考えた歌い方をちゃんと発表できた。」、「説明を聞いてうまく歌えるようになった。」などの感想が得られるなど、歌ってみて感じたことをワークシートに自分の言葉でまとめていた。

イ 体験の充実

「Forever」の学習前に、「夏の思い出」を「知覚・感受→思考・判断→表現」する学習過程を教師がリードしながら全体で学習したことで、生徒は学習の流れと方法が理解できたようである。「Forever」では、「知覚・感受」する場面において、教師の指示が無くても付箋に一人一人が捉えた曲想や歌い方の工夫について短い時

資料4 各グループの歌い方の工夫を基に実際に歌っている様子



間で記入していた。「思考・判断」の場面でも各グループに分かれて「音楽のアイテム」を使いながら、様々な意見を出し合い、主体的に歌い方を工夫することができた。

「表現」の場面では、各グループから指揮者を出し、「音楽のアイテム」を使って歌い方の工夫を伝え合った。そして、それぞれの考えた歌い方で表現することを通して、互いに批評し、より曲想にふさわしい表現をめざしていくことができた。

10 授業研究の成果

本研究授業では、すべての学習活動の支えとなる〔共通事項〕を手掛かりにして、「知覚・感受→思考・判断→表現」する学習過程を位置付けてきた。生徒は、歌詞や曲想から音楽のイメージをもち、〔共通事項〕である音楽を形づくっている要素を示した「音楽のアイテム」を基に、歌い方を工夫する活動を行った。その中で、どのように表現すればよいのかを「音楽のアイテム」と結び付けて考えたり、友達の考えを取り入れたりしながら、曲想にふさわしい歌い方を考えていくことができた。歌い方を工夫した後、工夫点を全体に伝えたり、互いが考えた歌い方の工夫を全体に説明し歌う活動を取り入れたりしたことで、イメージや歌い方の工夫について、共有することができた。そして、表現を練り合いながら、よりよい表現を求めていった。

このように、〔共通事項〕を手掛かりに、「知覚・感受→思考・判断→表現」する学習過程において、曲想にふさわしい歌い方を工夫していくことは、生徒の思考・判断する力を育てていくことにつながったと考える。

また、限られた時間の中で歌い方の工夫をする活動を展開するためには、曲の山の部分に的を絞るなど、工夫する部分を焦点化することも必要であることが分かった。今回の授業研究は、音楽から感じ取ったイメージから、曲想にふさわしい歌い方の工夫を行ったものである。今後は、歌詞の理解を深める活動を工夫し、歌詞を根拠に「音楽のアイテム」と関連させながら歌い方の工夫をする学習展開も取り組んでいきたい。

中学校第2学年「イメージしよう～絵画と音楽～」における知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる学習指導の展開
ー音楽のよさや美しさを味わいながら主体的に鑑賞するためのワークシートの工夫を通してー

1 領域 「B鑑賞」

2 題材名

「イメージしよう～絵画と音楽～」

3 題材の目標

音楽の特徴を感じ取り、イメージを広げながら鑑賞することを通して、音楽のよさや美しさを味わう。

4 焦点化する〔共通事項〕

- ・ア 音色，強弱，旋律，速度，構成
- ・イ 調

5 題材設定の理由

中学校学習指導要領（平成20年3月）の第2章第5節音楽第2各学年の目標及び内容「第1学年の目標と内容」の1目標（3）には、「多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。」と示されている。「音楽のよさや美しさを味わう」とは、「その音楽の内容を価値あるものとして自らの感性によって確認する主体的な行為であり、音楽に対して自分なりの意味を見いだすことにつながっていくもの」と述べられている。第2学年及び第3学年でも、「第1学年の学習の上に立ち、鑑賞した音楽について根拠をもって批評する」などして音楽のよさや美しさを味わう能力を高めることが示されている。また、今回の改訂では、生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考・判断し表現する一連の過程を大切にした学習の充実が求められている。

そこで、本題材では、音楽から知覚・感受したことを基に、イメージを広げながら鑑賞することを通して、音楽のよさや美しさを味わえるようにしたいと考えた。

表1は題材学習前の生徒の実態である。「小フーガト短調」の学習における生徒の記述から、知覚・感受した複数の旋律の重なりを言葉で説明することができる生徒は半数である。知覚・感受した音楽の特徴についてどのように

表1 題材学習前の生徒の実態

「小フーガト短調」の冒頭部分を聴き、演奏している人数を予想した後、その理由を自分の言葉で説明することができたか。

(第2学年3学級抽出82人)

	生徒の記述例	人数
要素を理由としてあげて説明できた	・はじめのメロディに次のメロディが重なり加わったから ・いくつかのパートがあったから	41人
十分ではないが説明できた	・音が三つあったから ・音が四つあったから	28人
説明できなかった	・なんとなく	13人

表現すればいいのか分からないという実態がある。

そのため、指導に当たっては、音楽から知覚・感受したことを基に、音楽のよさや美しさを味わえるようにするためのワークシートを作成する。そして、音楽を形づくっている要素を窓口に、音楽を聴いて感じ取ったことと絵画とを結び付けながら鑑賞する。さらに、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを客観的な理由として挙げながら、音楽を聴いて感じたことや思い浮かんだイメージなどを自分の言葉で表現する活動を位置付ける。このような活動を通して、知覚・感受したことを基に、思考・判断する力を育んでいきたい。

6 教材

組曲「展覧会の絵」から ムソルグスキー 作曲／ラヴェル 編曲

7 主題に迫る具体の手立て

(1) 〔共通事項〕を生かした活動

ア 音楽から感じ取って聴く要素の焦点化

楽曲を形づくっている様々な要素の中から、感じ取って聴く要素を音色、強弱、速度に焦点化し、生徒が主体的に要素やその働きに気付くことができるようにする。

イ 主体的に鑑賞するためのワークシートの工夫

組曲全体の構成が生徒にとって分かりやすく、楽曲をつなぐプロムナードの役割を理解しやすいようワークシートにまとめて示す。また、焦点化した要素を基に知覚・感受する手順が分かるように、記入欄を分けて示す。

(2) 言葉の重視と体験の充実

ア 音楽と絵画の鑑賞（体験の充実）

音楽と併せて絵画の鑑賞も行う。「展覧会の絵」は、標題のついた楽曲とそれらをつなぐプロムナードで構成されている。プロムナードは、同じ旋律が雰囲気を変えて5回出てくる。そこで、プロムナードを聴き比べ、曲想の違いを感じ取り、同じプロムナードでも曲想が違う理由を考え、プロムナードの意味を捉えていく。その際、絵画から受ける印象との関わりも手掛かりとしていくようにする。音楽と絵画と双方から鑑賞していくことで、音楽のよさや美しさを味わいながら、その音楽を理解していくことができると考える。

イ 感じ取ったことを表現する活動（言葉の重視）

音楽から知覚・感受したことをワークシートに整理し、それを発表し合い、音楽を表す言葉を共有していく。また、音楽や絵画から感じ取ったことを言葉にすることで、音楽と絵画を結び付けて曲想を捉えたり、曲想を生み出す要素について考えながら音楽を聴いたりしていく。そして、音楽のよさや美しさについて客観的な理由を挙げながら表現する。

8 授業の実際

(1) 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	エ鑑賞の能力
①音楽を形づくっている要素やそれらの働きが生み出す曲想との関わりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②楽曲の特徴を絵画と関連付けて鑑賞し、根拠をもって批評して音楽のよさや美しさを味わい、紹介文にまとめる学習に主体的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素（強弱、音色、速度、旋律、構成）やそれらの働きが生み出す曲想との関わりを理解して、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

(2) 学習と評価の計画（3時間扱い）

時	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	評価規準
第1時	【知覚・感受】 プロムナードの特徴を知覚感受し、曲の雰囲気を感じ取る	○プロムナード1とプロムナード4を聴いて特徴を感じ取る。 ○それぞれのプロムナードが何を表現しているのかを考え、組曲におけるプロムナードの役割と曲の構成を理解する。	音色 強弱 旋律 速度 構成 ↓	アー①
第2時	【思考・判断】 絵画に関する曲を聴いて特徴を感じ取り、絵画のどのようなイメージを表現しているのかを思考・判断する。	○「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」の音楽の特徴を感じ取って聴く。 ○学級で1枚の絵を選び、音楽を予想してから鑑賞し、自分のイメージとの相違点などについての感想を言葉に表す。		エー①
第3時	【思考・判断】 絵画と音楽との関わりを考えながら組曲全体を鑑賞する。	○絵画を見ながら楽曲全体を鑑賞し、紹介文をまとめる。		アー② エー①

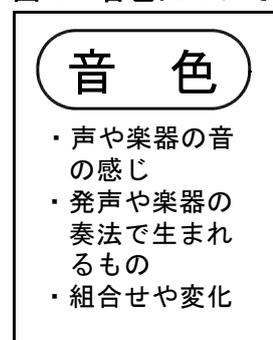
9 授業の分析と考察

(1) 〔共通事項〕を生かした活動

ア 音楽から感じ取って聴く要素の焦点化

第1時で二つのプロムナードを鑑賞する際に、感じ取って聴く要素として音色、強弱、速度を示し、それぞれの要素の特徴を比較することができるようにした。また、生徒にとって、強弱や速度に比べて音色とは何なのかが分かりにくいと考え、どのようなことを感じ取って聴くのかを図1のように例示した。その結果、三つの要素から二つのプロムナードを比較することで、曲想の違いがより浮き彫りになり、その違いを要素と結び付けて示すことができた。

図1 音色について



イ 主体的に鑑賞するためのワークシートの工夫（資料1）

第1曲から第10曲までの各曲と、何度も登場するプロムナードからなる組曲の構成を絵画を見せずに、冒頭のプロムナード1と、第4曲と第5曲の間のプロムナード4を聴いて感じ取った要素の特徴をメモ（知覚・感受）した。その後、それぞれのプロムナードに何が表現されているのかを考え（思考・判断）、プロムナードの役割について理解し、組曲の構成が捉えられるようにした。

資料1 第1時のワークシート

ムソルグスキー作曲／ラヴェル編曲 組曲「展覧会の絵」から

☆曲の構成を理解し、プロムナードの役割を感じ取ろう。

プロムナード1

第1曲
グノーム

プロムナード2

第2曲
古城

プロムナード3

第3曲
チュイルリー

第4曲
ビドロ

プロムナード1
トランペット

①音楽の特徴をメモしながら聴こう

【知覚・感受】

②プロムナード1には何が表現されているのだろうか？

【思考・判断】

プロムナード4
フルート

①プロムナード1との音楽の特徴の違いはどんなところがメモしよう。

【知覚・感受】

②なぜプロムナード4はこのような音楽になったのだろうか？

【思考・判断】

プロムナード4

第5曲
卵の殻をつけた
ひなどりのバレエ

第10曲
キエフの大門

第9曲
鶏の足の上の
小屋

プロムナード5
死せる言葉による死
者への話しかけ

第8曲
カタコンベ

第7曲
リモージュ
の市場

第6曲
サムエル・ゴール
デンベルクと
シュムイレ

その結果、知覚・感受した音楽の特徴として、資料2に示したように、生徒Aは、プロムナード1で「大きな音」、「明るい感じ」、「長調」、プロムナード4で「静か」、「少し怖い感じ」、「短調」、生徒Bは、プロムナード1で「トランペット」、「強く」、プロムナード4で「高い音」、「低い音」、「暗く」、「木管楽器」、「静か」とメモした。

資料2 第1時のワークシートへの記入例

	プロムナード1	プロムナード4
生徒A	<p>【知覚・感受】 最初の印象がすごく大きな音で明るい感じ。長調。</p> <p>【思考・判断】 わくわくしているような気分だと思った。</p>	<p>【知覚・感受】 さっきとは違って、少し怖い感じで、静かになった。短調。</p> <p>【思考・判断】 少し怖そうな絵を見たから。</p>
生徒B	<p>【知覚・感受】 トランペットから始まる。最初は強く始まる。</p> <p>【思考・判断】 どんな作品なのか、友人の作品を楽しみにしている。</p>	<p>【知覚・感受】 高い音から始まって低い音になっていく。木管楽器から始まる。始まりが暗くて静か。</p> <p>【思考・判断】 悲しい絵を見た後なのだろう。</p>

また、それぞれのプロムナードが表現しているものについて、知覚・感受したことを基に、思考・判断し、生徒Aも生徒Bも、展覧会を見に来た作者の気分や、絵から絵へ

移るときの気分について記述しており、組曲の構成とプロムナードの役割を理解できていることが分かる。

(2) 言葉の重視と体験の充実

ア 音楽と絵画の鑑賞（体験の充実）

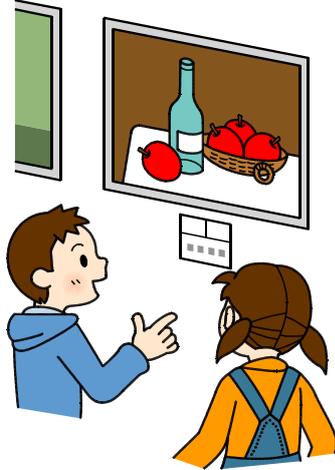
教科書にも絵画が掲載されているが、より展示会の雰囲気味わえるように、絵画を拡大印刷して掲示し、鑑賞した。何が描かれているのか興味・関心をもって絵画を眺めたり手元の教科書で細部を観察したりする姿が見られた。作曲者が各曲に表現した絵画から受けたイメージについて理解を深めることにつながったと考える。

第2時では、「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」の絵画を見る前にまず音楽を聴くことにした。そして、音楽の特徴を感じ取って聴き、どのような絵画のイメージを基に作られた曲なのかを考える活動を行った。資料3の生徒の記入例から、音楽を特徴付けている要素や曲想を知覚・感受して聴き、それを理由として思い浮かんだ絵画のイメージを表していることが分かる。授業では、どのような絵画なのかを言い当てるのが目的ではなく、音楽と結び付けてイメージすることと、イメージしたことを言葉で表す過程が大切であると説明した。楽曲の特徴から、人や小動物が走る様子や逃げる様子を思い浮かべる生徒が多く、学級全体でイメージを共有することができた。

資料3 第2時のワークシート

ムソルグスキー作曲／ラヴェル編曲 組曲「展覧会の絵」から

☆ 音楽の特徴と絵画のイメージを結び付けて鑑賞しよう。



♪これから聴く曲は、どのような絵を見て作られたものだと思いますか？

【聴いて感じ取った音楽の特徴メモ】

【知覚・感受】
生徒の記入例
高い音が多い。弾むような速さのところもあれば、ゆるやかな流れのところもある。明るい音楽。きわめて速い。いそいでいる。フルーツかピッコロ？

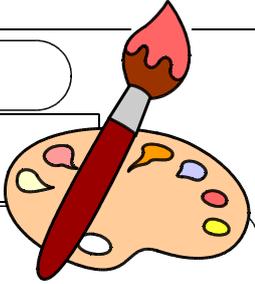
このような音楽の特徴を感じ取ったので

【思考・判断】
生徒の記入例
あせっている。ウサギが逃げている。野生のネズミが猫に追いかけている。

次に、学級で気に入った絵画を1枚選び、絵画のイメージと音楽の結び付きについて考え、感じたことをワークシートに記入する活動を取り入れた。それぞれの活動の手順を分かりやすく示し、音楽の特徴や絵や音楽を鑑賞して自分が感じたことを言葉で書き表しやすいようにした。授業では、生徒が絵画を見て感想を記入した後で、絵画に関する解説を行い、音楽を聴いて感じ取る際の手助けとなるようにした。資料4の生徒の記入例から、特に意識して聴く要素を指定しなくても、音楽を聴いて要素の特徴や曲想を感じ取って聴いていることが分かる。

資料4 第2時のワークシート

♪次に聴く曲は…「 第8曲 カタコンベ 」	
絵を見たあなたのイメージ、感想は？ 生徒の記入例	暗い。不気味。
曲を聴いて、どう感じましたか？ 生徒の記入例	高い音や低い音などがあった。おっかない音。同じ音が10秒ぐらい流れた。不気味な音。同じリズムが何回も繰り返されていた。トロンボーン、トランペットなどの楽器の音があった。暗い。



イ 感じ取ったことを表現する活動（言葉の重視）

個人でワークシートに記入した音楽の特徴について、全体で発表し合い、感じたことをどのような言葉で表現したのかを確認し合った。その際、その言葉が音楽の要素のどれに当たるのかを分類したり、同じことを表現している言葉をまとめて板書したりして、感じ取ったことを表すためにどのような言葉や用語がふさわしいかを意識できるようにした。また、参考になった友達の表現を自分のワークシートに書き加え、自分の感じ方や言葉での表現の仕方に生かせるようにした。このような活動から得た語彙を基に、自分の感じ取ったことや考えたことをワークシートに表現することができた。

第3時では、絵画と併せて、プロムナード1、第1曲、プロムナード4、第5曲、第8曲、第9曲、第10曲を続けて鑑賞し、組曲「展覧会の絵」についてこの曲を知らない人に紹介するために紹介文を書く活動を行った。自分の気に入った曲を中心に紹介する生徒が多く、絵画と音楽とを結び付けた上で紹介文を書くことができていた。資料5から、生徒1は客観的な理由として「音が低い」ことをあげ、「怖い感じ」、「不気味」と感じたことや、グノームが地中の宝を守る地の精であるという説明を受け、グノームの強さが音楽の「力強さ」につながっていると分析している。生徒2は「明るく楽しい感じ」から思い浮かんだ場面を説明し、「力強い」と感じた曲には「魔女の恐しさ」が表現されていると説明している。生徒3は、特に「音が大きい」ことを理由としてあげ

資料5 組曲「展覧会の絵」の紹介文から

下線部：客観的な理由、波線部：音楽のよさや美しさの説明

家である友人のことや友人に対するメッセージが表現されていると記述しており絵画と音楽の結び付きだけでなく、その背景にある作曲者の心情や作曲家の国の文化についても感じ取って聴いていることが分かる。この紹介文を基に、友達に伝え合う活動を行った。それぞれが感じ取った音楽のよさや美しさについて、共感したり、自分との感じ

生徒1	「グノーム」は音が低くて怖い感じがする。ちょっと不気味。地中の宝を守る＝強い→力強い音楽になった感じ。
生徒2	「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」は、明るく楽しい感じがして、生き物が走っているような場面が思い浮かんだ。私が絵を見た印象とは違っていた。でも私はこの曲が一番好きだと思った。「鶏の足の上の小屋」は、力強い感じがした。魔女の恐しさが出ているんじゃないかと思った。
生徒3	「キエフの大門」は音が大きく、自分の国になぜだか誇りをもっているような感じと、友達の話や、死んでしまった友達に対するメッセージが、堂々と表現されていて素晴らしいと思いました。

方の違いに気付いたりすることができた。

10 授業研究の成果

本研究では、音楽を形づくっている要素を窓口とし、音楽を聴いて感じ取ったことと絵画のイメージとを結び付けて鑑賞した。そして、知覚・感受したことやイメージしたことから曲の紹介文を作成し、友達に伝え合う活動を通して、思考・判断する力を身に付けさせたいと考え、ワークシートを用いて授業を行った。ワークシートの作成においては、知覚・感受したことと思考・判断したことを分けて記入できるようにしたり、知覚・感受する音楽を形づくっている要素や思考・判断する内容を明確に提示したりする工夫をした。その結果、生徒が主体的に要素やその働きに気づき、組曲全体の構成やプロムナードの役割を理解したり、各曲の特徴を捉えたりしながら鑑賞することができた。また、音楽を聴いて知覚・感受したことを客観的な理由として挙げながら音楽のよさや美しさについて表現し、それを友達と伝え合いながら、音楽のよさや美しさを味わうことができた。

このような結果から、ワークシートの工夫は、生徒が、知覚・感受したことを基に、音楽を理解したり、音楽のよさや美しさを感じ取ったりするための手立てとして有効であり、思考・判断する力を育てていくことにつながると考える。

また、中学校学習指導要領音楽に示されている「根拠をもって批評する」とは、客観的な理由を挙げながら、対象の音楽について、自分にとっての価値を述べることである。本題材における紹介文の分析からは、客観的な理由と音楽のよさや美しさについて、記述の分量に偏りが見られた。活動内容やワークシートの改善を図り、客観的な理由を挙げながら、音楽のよさや美しさを自分なりの言葉で表現する活動を充実させることで、更に思考・判断する力を育てていきたい。

3 研究のまとめ

音楽科では、「知覚・感受したことを基に思考・判断する力を育てる音楽科学習指導の展開」を研究主題に、「共通事項」を生かした言葉の重視と体験の充実を踏まえ、音楽を形づくっている要素の焦点化を図ったり、音や言葉で「伝え合う」活動を位置付けたり、具体的な手立てを講じた表現及び鑑賞の実践的な授業研究を行った。その結果、思いや意図をもって表現する姿、よりよい表現にするために工夫する姿、音楽のよさや美しさを味わいながら主体的に音楽を聴く姿などが見られた。このように知覚・感受したことを基に思考・判断する児童生徒の姿から、以下のことが分かった。

(1) 「共通事項」を生かした活動について

- ・ 小学校「A表現 音楽づくり」において、楽曲から音楽の仕組みや音楽を特徴付けている要素を知覚・感受することを通して楽曲を分析したことは、音楽をつくるための知識及び技能である音楽の構成原理の理解につながった。
- ・ 中学校「A表現 歌唱」では、「共通事項」を手掛かりに、「知覚・感受→思考・判断→表現」する一連の学習過程を位置付けた。音楽を知覚・感受することは、思考・判断しながら豊かな表現をつくっていくための準備として不可欠であることが分かった。
- ・ 中学校「B鑑賞」において、知覚・感受する要素の焦点化を図って鑑賞したことは、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを理解しながら、主体的に音楽のよさや美しさを感じ取ることにつながった。また、学習内容や学習過程を反映させたワークシートを工夫したことは、ねらいに添って主体的に鑑賞することに有効であった。

(2) 言葉の重視と体験の充実について

- ・ 小学校「A表現 音楽づくり」において、自分の表現したい音楽のイメージを言葉で表現したことは、思いや意図を明確にし、イメージと音楽の構成原理を結び付け、思考・判断しながら、自分のイメージに合った音楽をつくることにつながった。また、音楽をつくる過程において、音と言葉による交流を位置付けたことは、更によりよい音楽をつくることにつながった。
- ・ 中学校「A表現 歌唱」では、「知覚・感受→思考・判断→表現」する一連の学習過程において、全体やグループで、言葉や音を通して表現を練り合う場を位置付けた。知覚・感受したことや思考・判断したことを言葉で伝え合ったり、音で表現したりしたことは、より曲想にふさわしい表現をすることにつながった。
- ・ 中学校「B鑑賞」において、音楽から知覚・感受したり、思考・判断したりしたことをワークシートに整理して伝え合ったことは、音楽を表す言葉の共有化を図ることにつながった。また、音楽を聴いて知覚・感受したことを客観的な理由として挙げながら、音楽のよさや美しさを味わうことにつなげることができた。

「共通事項」を生かした言葉の重視と体験の充実を踏まえ、具体的な手立てを講じたことは、児童生徒に、知覚・感受したことを基に、思考・判断する力を育てていくことにつながったと考える。さらに、児童生徒の思考・判断する力を育てていくために、学習指導の改善・充実を図っていきたい。

< 引用文献 >

文部科学省「小学校学習指導要領」平成20年3月

文部科学省「中学校学習指導要領」平成20年3月

文部科学省「小学校学習指導要領解説音楽編」平成20年8月

文部科学省「中学校学習指導要領解説音楽編」平成20年9月

関係者一覧

1 研究協力員

小美玉市立橘小学校	教諭	東ヶ崎 悦子
龍ヶ崎市立城西中学校	教諭	川嶋 圭介
銚田市立銚田南中学校	教諭	曾根 博美

2 茨城県教育研修センター

所長	谷田部 佳見
教科教育課 課長	佐藤 誠
同 指導主事	石川 真裕美

